

ユーロ圏の常設の金融安全網である欧州安定メカニズム（ESM）のレグリング総裁＝写真＝は都内で日本経済新聞の取材に応じた。反緊縮派政権が誕生したギリシャについて、財政健全化を含む改革の継続が「同国の利益にかなう」と強調。ユーロ危機の再発を心配する声には、今の欧州にはあらゆるリスクに対応する「十分な準備がある」と語った。

改革継続「ギリシャの利益」

欧州安定メカニズム総裁



ESMはギリシャに過去3年間で1400億ユーロの長期資金を低利で提供しており、同国の債務の44%を

負担している。総裁は「ギリシャ国民の7割超がユーロ圏にとどまりたいと思っていることを知るのが重要だ」と指摘した。

ギリシャ問題がユーロ危機の再発を招くとの声には、ESMによる加盟国支援の体制が整備され、2014年秋にユーロ圏の銀行同盟がスタートするなど

非ユーロ建て債券を検討

「（危機が生じた）5年前と比べ、ユーロ圏の状況は様変わりした」と反論した。

ESM債と欧州金融安定基金（EFFSF）債については、毎年300億ユーロ程度の発行を続ける見通しだと表明。現行はユーロ建て債券のみの発行だが、日本やアジアなどからの投資をさらに引き出すため、他通貨での発行を検討中であることも明らかにした。